



H18. 9.29 1211
静岡県漁業協同組合連合会
☎054-254-6011 Fax054-253-9343
編集・発行 = 指導部 漁政課
URL: <http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/>

1. イセエビ刺網漁が解禁 漁獲量は前年並みと予測

南伊豆町の石廊崎や湊地区では、伊豆の秋の味覚を代表するイセエビの刺網漁が、9月17日解禁(漁期は来年5月14日まで)となり、今期初の水揚げが行われました。台風の影響で同町の他の漁港の口開けは数日遅れ、20日には本格的な水揚げとなりました。

17日両地区で水揚げされたイセエビの型は、全体的にやや小ぶり(130~250gが中心)で、現在は、千葉県などの産地が不漁のため、イセエビの販売価格は全体的に高値に推移しています。

解禁前に県水産試験場伊豆分場では、下田市、南伊豆町のイセエビ漁の平成18年度漁期の漁獲量について、水揚げ後に放流した子エビ(体長13cm以下)の量と、翌年のイセエビ漁獲量の間に関連関係がある点に着目し、平成17年度の子エビは約94,000匹と前年よりやや減少したため、今期の漁獲については前年並みか、やや少なめと予測しました。

また、イセエビの漁獲量は最少だった昭和62年(22.5ト)以降増加傾向にあり、平成17年度の漁獲量は、約38.6ト(前年比7.3ト増)となっています。

2. 協同組合間の事業提携事例発表会が開催される - 資料提供JF全漁連 -

農林水産省では9月20日、農水省において「農業協同組合、森林組合及び漁業協同組合間の事業提携事例発表会」を開催しました。

事例発表では、北海道(JA常呂町・JF常呂)、静岡県(JAするが路・JF由比港)、宮城県(JA串間市大束・南那珂森林組合・JF串間市)の3事例の発表が行われました。

JAするが路・JF由比港の発表では、JFが経営している直売所・飲食店(浜のかきあげや)横で開催する日曜朝市で、JA女性部が味噌・コンニャク等の農産加工品や柑橘類、野菜を出荷販売しており、業務提携後は、JF直売所・浜のかきあげやの売り上げが前年比15.6%増加するなど、水産物だけではなく農産物も含めた町特産品全般のPRへつながりました。また今後は、観光農業と漁業体験をからめた新たな計画を模索中で、物の販売から観光へと活動を展開していきたいなどと述べられました。

コーディネーターを務めたJA総合研究所の根岸久子客員研究員は、「協同組合間に限定せず、地域の活動グループ等もっと幅広く連携を考えることが必要で、新しい企画を打ち出すこと、事業提携の可能性について敏感になること」などとまとめました。

3. 都道府県漁業調整担当者会議が開催される

全国海区漁業調整委員会連合会、水産庁主催による、18年度海区漁業調整委員会事務局職員研修会兼都道府県漁業調整担当者会議が9月21、22日の両日、静岡市(もくせい会館)において開催されました。

始めに、全国海区漁業調整委員会連合会竹内副会長、水産庁資源管理部沿岸沖合課黒萩課長補佐並びに、県農業水産部坂総室長の挨拶に続いて、「漁業と遊漁との調整」と「沿岸漁業と沖合漁業との調整」の2つのテーマに、都道府県の海区漁業調整の担当者から事

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう

自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

例が報告され、意見・情報交換が行われました。

このうち「漁業と遊漁との調整」では、遊漁に関する委員会指示の例(福岡県) まき餌規制の解除の事例(富山県・京都府) ひき縄釣への対応(東京都)、また、「沿岸漁業と沖合漁業との調整」では、北海道・宮城県・長崎県(対馬)・静岡県の担当者から、夫々の海区の最新事例などが報告され、水産庁担当者を交え活発な意見交換が行われました。

4. 第49回全国内水面漁業振興大会が盛会に開催される

全国内水面漁連では9月14日、電力ホール(仙台市)において「みどり豊かな自然環境を未来へ引き継ごう」をテーマに、全国の内水面漁業者、研究者、行政担当者ら約650人が参加し、第49回全国内水面漁業振興大会を開催しました。

始めに、主催者を代表して全国内水面漁連櫻井会長より挨拶が行われた後、開催地代表として宮城県内水面漁連高橋会長の挨拶が行われました。引き続き来賓による祝辞が披露され、白須水産庁長官より「内水面漁業振興のため、皆さんにも今大会を契機により一層尽力していただきたい」と激励されました。

議事では各地域の生産者代表が内水面漁業の直面する課題、問題を指摘し、そのうえで大会スローガンに掲げた、河川環境の多様性の再生 カワウの狩猟鳥獣への指定 ブラックバスの再放流禁止 アユ冷水病ワクチンの早期実用化への対応が早急に必要だと訴えました。

最後に宮城県内水面漁連渡邊理事が、「内水面漁業復元の重要性を国民に広く訴え、健全な内水面漁業振興を図ることが急務である」とする大会宣言を読み上げ、満場の拍手で採択しました。

5. 第32回高校生の農林水産統計図表コンクール審査会が開催される

関東農政局静岡農政事務所ではこのほど、平成18年度(第32回)高校生の農林水産統計図表コンクールの審査会を開催しました。

このコンクールは、高校生の農林水産業及び農林水産統計に関する理解と統計の図表化技術の向上を図り、もって農林水産業の発展に資することを目的として、昭和50年より毎年開催されてきましたが、近年コンクールへの応募が少なくなっている等ことから、このコンクールは今年で最後となりました。

今回は44作品(うち、水産を題材とした作品は7作品)の応募があり、審査会により金賞3点、銀賞5点、佳作8点などを決定しました。水産関連の図表では次の方が入賞しました。

金賞(全国農林統計協会連合会長賞) / 作品タイトル「静岡県 さくらえび漁獲量の推移」 = 齋藤 歩さん(県立浜松大平台高校3年)

努力賞(静岡農林統計情報協会賞) / 作品タイトル「静岡の金目鯛漁獲量」 = 伊藤晋平さん(県立下田南高校2年)

6. 会議・日程(10月3日(火)~10月16日(月)) - 既報分省略 -

10月11日(水) 県おさかな普及協議会 = 第2回イキイキ高校生おさかな

料理コンクール書類審査会 (県水産会館)

10月12日(木) 県漁港漁場協会 = 第58回全国漁港漁場大会 (東京メルパルク)

10月12(木)~13日(金) 県漁船保険組合 = 漁船保険事務担当者研修会 (長岡ホテル)

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう